

経営の一助に！週刊長崎県CSR通信 vol.1

初めまして。経営者の皆様に、長崎県からお伝えしたいことがあります。

はじめまして。この通信は社会貢献に関心をお持ちの経営者の方に、長崎県がお送りしています。最初に、なぜこの通信を発行するのか、ご説明させていただきます。

最近の新聞では「CSR(企業の社会的責任)」の文字をよく見かけますが、障害のある方の雇用や、障害者支援施設との取り引きも、CSRの大きな柱の1つです。

現在、県は施設と連携して、障害者の就労支援や施設商品・サービスの販促支援に取り組んでいるところですが、障害者を戦力として、ビジネスパートナーとして活用されている企業の情報も入ってくるようになりました。

そこで、長崎県内の多くの経営者の皆様にそんな事例を知っていただき、win-winの関係を構築して、経営に活かしてもらえないだろうか？そんな想いを込めてお送りします。

企業で障害者支援施設がお菓子を販売しています。

AIGコミュニケーションワン(長崎市常盤町)さまでは、知的障害のある方などが利用している施設さんらいず(長崎市坂本町)さまに、今年7月からクッキーなどを販売できるように社員食堂の一角を提供していらっしゃいます。一体、社員の方の反応はどうなんでしょうか？受け入れ企業のAIGコミュニケーションワンのマネージャー緒方直樹さんと、販売したさんらいずの生活支援員出口真さんにお話をうかがいました。

企業側

- このような取り組みを始めたきっかけは？

緒方さん「さんらいずさんからお話をいただいたのがきっかけです。販売を開始したのは、社員に喜んでもらう狙いもありましたが、障害のある方を応援したいというCSR的な観点の方が大きかったですね。」

- 福祉施設と組むにあたって、懸念などは？

緒方さん「衛生面など気になった点は、実際に施設にうかがい確認しました。管理体制も充分で、懸念は何もなかったです。」

- 実際に販売を始めての感想は？

緒方さん「ご覧のとおり、長蛇の列ができる(写真)ほど、社員は大きな関心を持っています。また、販売されている障害者もお客さんと接して、生き活きた表情をされているので、お役にたてたかな、と嬉しく思っています。」



施設側

- 売り上げはいかがでした？

出口さん「事業を始めてから、過去最高の売り上げを記録しました！」

- 苦労した点は？

出口さん「経験したことがないほどの大勢のお客様への対応が大変でした。次回はもっとよくしたいです。」

- 販売した障害者の感想は？

出口さん「お客様とお話することは元々好きなんですけど、この日は売り切れたこともあり、疲れも嬉しさで吹き飛んだようです。施設に戻り終礼で売上金額を報告したら、施設内で「ウォー！」という歓声が上がったんですよ！これからも満足していただける商品を提供していきたいですね。」

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年8月29日(毎週金曜19時発行) 発行部数:1036部
〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

この通信は企業や大学、マスコミ各社などにお送りしています。「うちも販売に来てもらいたい！」などのご相談や取材依頼、通信の要不要などは、上記担当までご連絡をお願いします！

経営の一助に！週刊長崎県CSR通信 vol.2

県庁で障害者支援施設がパン販売を始めました。

今週は、**長崎県職員生活協同組合**(長崎市江戸町)と県が協同で始めた、障害者の施設による県庁でのパン販売についてご紹介します。県庁で販売を始めたのは、

「毎日食べても飽きないほどおいしい」**ワークショップあさひ**(長崎市西山)さん、
「新商品『角煮ぱん』は角煮とパンの相性抜群」**桜の庵**(時津町子々川郷)さん、
「安くておいしいので、いつも売り切れ」**アビのパン**(長崎市御船蔵町)さんの3施設。

販売第1週(9月2日～4日)は3施設とも完売しました。今回は施設を代表して桜の庵の**山崎崇**施設長と、県職員生活協同組合の**本田稔**専務理事にインタビューしました。

施設側

- パンは15種類以上あるんですね！

山崎さん「県庁売店で販売されているパンを参考に、県庁の皆さんが好むパンは何か？大きさや値頃感はどうか？を研究し、**目玉商品の開発**などを課題に新商品を始め多数ご用意することができました。」

- 実際に販売してみたの感想は？

山崎さん「販売開始後、あっという間に完売してホッとしましたが、それ以上に接客した利用者が『売れると嬉しい』ととても喜んでくれたのが何よりです。」

「角煮ぱん」は**田中食品**(長崎市)さんとの提携で誕生したそうです。誕生秘話は後日ご紹介します。



企業側

- 今回の取り組みを始めた理由は？

本田さん「県庁生協の活動の1つに**福祉問題**があり、何かできないか検討していたところ、『障害者施設の昼食販売場所を探している』という話を聞いたので、**お互いメリットがあると判断し**、販売場所の提供や職員への広報などご協力させていただきました。」

- 販売1週目が終わっての感想は？

本田さん「3日とも完売して、よかったです。競合となる面もありますが、**刺激にもなり、相乗効果もある**と思っているので、1人でも多くの職員を、このフロアに呼び込みたいですね。」

「法人税の優遇制度」と「補助金」のご案内

障害者の施設へ発注した額に応じて
法人税が優遇されます

企業などが、施設など「障害者の働く場」への発注額を前年度より増加させた場合、増額分に応じて法人税などの税制優遇が認められるようになりました。

障害者の職場実習生を受け入れる
企業へ**補助金**が出ます

企業が障害者の職場実習生を継続的に受け入れる場合、職場実習時に必要な設備導入や施設の改修などに要する経費について、補助が受けられます。(9月末申請締め切り)

優遇税制や施設との取り引き、補助金などに関するお問い合わせは、下記発行者まで。

企業と障害者がwin-winの関係となるお手伝いをする「週刊長崎県CSR通信」 発行部数:1021部
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年9月5日(毎週金曜19時発行) 電話095-895-2454

「いくら情報だけを提供したとしても、それだけでは読者さんへの貢献(=価値の創造)ができない」(鮎谷周史さんのメールマガジン「平成・進化論。」第1816号より引用)。情報の羅列ではなく、「施設と組んでよかった！」という価値をご提供できるように努めていきます！

経営の一助に！週刊長崎県CSR通信 vol.3

障害者施設が建物の清掃作業を受託しています。

障害者の施設では、パンやクッキーなどの食品を作るだけでなく、いろんな商品やサービスをご提供していますが、中には清掃作業を行う施設もあります。

佐世保では、つくも苑（佐世保市野崎町）さまが、障害者就労継続支援B型事業所の**のびのび**（佐世保市相浦町）さまに建物の清掃を委託していますが、障害のある方はどのように清掃作業をされているのでしょうか？

今回は、**のびのび**の**鉄川美子**職業指導員と、発注者の**つくも苑**の**松尾康弘**所長にインタビューしました。

施設側

- 清掃は何人体制で、どんな作業内容ですか？

鉄川さん「障害者4名と指導員1名の5名体制で、月～金曜まで、モップや掃除機を使っての廊下やトイレ、スロープの清掃、空き缶やダンボールの収集・分別など一通り行っています。」

「これとは別に、敷地内のATM機の清掃も受託しています。かなりの重労働で、終わると汗だくなんですよ。」

- 障害者が清掃作業を覚えるのは難しいですか？

鉄川さん「人それぞれですね。自閉症の子なら、興味を持たば数回で覚えますし。ただ、覚えるまでに時間がかかっても、意識を集中できるようにになれば、清掃はきれいにできます。」

「慣れたスタッフは、花をきれいに生けるなどの気配りもできるので、発注先にも喜んでいただいています。」



左から山本さん、入口さん、神吉さん、村田さん。
チームワークもバッチリ！



ほうきを使うのも手慣れたもの。

発注側

- 清掃を委託しての感想は？

松尾さん「平成5年から委託していますが、**ていねいで、とてもきれい**にしてもらっています。」

- 金額面については？

松尾さん「**市価より安い**し、仕上がりにも満足です。」

- 施設に委託してよかったことは？

松尾さん「うちの入所者、特に児童が彼らが来るのをいつも楽しみにしているんですよ。お互い励まし、励まされて、刺激になっているようです。」

法人税の優遇措置 などのご案内

障害者の職場実習生を受け入れる企業へ補助金が交付されます（申請は9月末締め切り）

詳しくは <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/jisyu/tirasi.html>

障害者の施設との取引額に応じて、法人税等の優遇措置が認められます

詳しくは <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

先週は5件のお問合せ
ありがとうございます！

企業と障害者の連携事例紹介紙「週刊長崎県CSR通信」 発行部数：1063部

発行 長崎県障害福祉課（担当：村井）平成20年9月12日（毎週金曜19時発行）電話095-895-2454

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

鉄川さんがご存じの障害者に「年月日（たとえば1980年1月30日）を言えば曜日がわかる」という方がいらっしゃるのをご存知ですか。鉄川さんいわく「曜日計算には、難しい数式を使わないといけないので、カレンダーを全て覚えてるとしか思えない！」すごい能力があるんですね。

経営の一助に！週刊長崎県CSR通信 vol.4

クリーニング業を営む**長崎基準寝具**（長与町高田郷）さまは、知的障害者など、17名の障害者を雇用されており、障害者雇用優良事業所として労働大臣表彰を受賞されたのを始め、多数の表彰を受けていらっしゃいます。今回は、知的障害者雇用のポイントについて、**森田泰**社長にお話しをうかがいました。

森田社長に、知的障害者雇用について訊きました。

- 知的障害者を受け入れるきっかけは？

森田さん「30年くらい前に、1年間限定で訓練生として受け入れることになったのがきっかけです。当時、訓練生の顔を見た時は、『ムリ！』と思いましたが(笑)。」



作業は、正確で速い！

- そんな状態から、継続して雇用するようになった理由は？

森田さん「機械仕事は難しいと思い、機械を使わない業務をしてもらっていた時、長崎大水害で当社も大きな被害を受けたんです。そこで、その訓練生に水害で流れ込んだドロを一輪車を使って運び出す作業をもらったところ、とにかく上手で一同ビックリ！しかも朝から晩まで黙々と。それ以来、私たち社員の彼に対する評価は一変しました。彼も誉められたことで、**自信がついて、態度も前向きになったんです。**」

「この一件で『彼なら、機械も使えるのでは？』と、作業を教えたら、時間はかかったものの覚えられたんです！**彼が一人で機械を動かした時の喜びと驚きは忘れられないですね。**」

- 知的障害者の特性と、育成のポイントは？

森田さん「とにかく勤勉で、休まないですね。人が見ていようがいまいが、きちんとやります。一方、健常者が半月で覚える作業に半年はかかり、独り立ちまでに3年は必要です。毎日、同じことを繰り返し教えるのは、我慢比べですよ。でも、**辞める人はほとんどいないので、長期で見れば充分、戦力になります。**なかには主任などの役職に登用できるほど頑張る人もいますよ。」

- 最後に、県内の経営者の皆さんにメッセージを。

森田さん「私の知り合いの経営者に、知的障害者が作業する様子を見学してもらったところ、評価がガラッと変わり、近々、職場実習生として受け入れるそうです。『百聞は一見に如かず』ですよ。障害者を戦力にできたら、経営の選択肢は広がると思います。」



この日は恒例の昼食会。障害者の皆さんが肉をおいしく焼いてくれました！

障害者雇用の前に、まずは障害者施設への発注から、という経営者の方へ

施設との取引額に応じて、**法人税等の優遇措置が認められます！**

詳しくは<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

先週は0件のお問合せ
お気軽にどうぞ！

企業と障害者の連携事例紹介紙「**週刊長崎県CSR通信**」 発行部数：1095部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年9月19日(毎週金曜19時発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

今回の森田社長インタビューは、2回に分けてもいいほど、興味深いお話しが盛りだくさんでした。お招きいただいた昼食会に、経営者仲間を始め大勢の方がいらっしゃったのは、社長のお人柄ゆえ。これからも障害者のよき理解者として、ご協力をよろしく願います！

施設で、季節色豊かなインテリア炭を作っています

今日ご紹介する精神障害者通所授産施設のワークステーションむつごろう（諫早市本野町）さまでは、園芸用のおもり「どっしり君」の製造・販売やとれたて野菜の宅配に加えて、インテリア感覚で使える**白炭のリース**もされています。

どんな商品で、どんな特徴があるのか？など、ワークステーションむつごろうの**菅原友子**さんと、実際にご利用いただいている**割烹利休**（諫早市永昌東町）の**陰平恵美子**さんにインタビューしました。

施設側

- 白炭のリースについて教えてください。

菅原さん「知的障害者授産施設のあゆみ園で生産されている対馬産の白炭を、店舗やご家庭にリースしています。施設の障害者が花などを飾りつけた炭を契約先に毎月交換にうかがい、回収した炭は水洗いした後、陰干しし、常に新鮮な状態にしています。」

- 商品の特徴は？

菅原さん「炭には消臭効果を始め、電磁波や湿気の吸収、カビの予防などに効果があるとされているので、室内、車などいろんなところにご利用いただけます。」

- 商品にどんな工夫をしていますか？

菅原さん「10月には紅葉など、炭に折り紙などを使って**季節に合わせた飾り付け**を行い、見た目にも楽しんでいただけるように心がけています。これは、幼稚園の先生の資格を持っている職員のアイデアなんですよ。」

- 今後の抱負を。

菅原さん「今は、契約先が約150件ありますが、更に広まるようにしたいですね。」

発注側

- 取り引き開始のきっかけは？

陰平さん「常連さんからの推薦で、4～5年前から取り引きを始めました。」

- 使ってみた感想は？

陰平さん「お客様が『あれは何ですか？』と、よく気づかれるんですよ。見て楽しいですね。」

- 施設へのメッセージを。

陰平さん「これを作ってくれた障害者にも、実際に飾っているところを見てもらって、『助かってますよ！』と伝えたいですね。これからも、できる協力はしたいと思います。」



季節ごとに飾り付けが変わります。炭が、毎月鮮やかにデザインされるんです。

法人税の優遇措置などのご案内

障害者施設との取引額に応じて、**法人税等の優遇措置**が認められます。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者の施設で取り扱っている**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

先週は**2件のお問合せ**ありがとうございます！

企業と障害者の連携事例紹介紙「週刊長崎県CSR通信」 発行部数：1382部
発行 長崎県障害福祉課（担当：村井） 平成20年9月26日（毎週金曜19時発行） 電話095-895-2454
バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>
先日、「弱者の戦略」の栢野克己さんのセミナーで一緒した、鹿児島県の経営者の方（年商12億！）が「今、障害者施設に業務を委託しているが、安くてよくやってくれるから、他人には教えたくないんだよ」とおっしゃっていました。商品・サービスリストをご覧いただき、お近くの施設に1度ご連絡されてみては？

不動産会社の空き物件を、障害者施設がハウスクリーニング

施設で作業をする障害者が受け取る「工賃」（賃金のようなもの）の平均額は月1万2千円弱（平成19年度の長崎県内実績）ですが、障害者の施設に仕事を発注して、少しでも障害者の工賃を増やそうという経営者も多数いらっしゃいます。

そんな経営者のお1人で、管理物件のハウスクリーニングを施設に委託している**アート不動産流通**（諫早市永昌町）の**梅田裕**代表取締役と、作業を受託している**ワークセンターほたる**（長崎市古賀町）の**廣瀬美紀**支援員に取材してきました。

発注側

- 障害者施設と取り引きを始めたきっかけは？

梅田さん「私が所属する諫早多良見ロータリークラブが、県立希望が丘高等養護学校の評議員を受けていた関係で、障害者自立の手助けになればという思いから、1年ほど前から弊社が管理する空き物件のハウスクリーニングや敷地内の除草作業を委託し始めました。」

- 特に、知的障害者の社会的自立は容易ではありませんね。

梅田さん「障害者の作業所で支払われる工賃が1万円程度だということは知っていました。以前と違って、養護学校の知的障害者で就職できる人もわずかだし、たとえ就職できても職場に定着できる人はほとんどいません。だから、職場実習や障害者による起業を提案しましたが、なかなか前進しなかった。」

「そんな中、自分たちが発注することで少しでも役立てれば、という気持ちがあるんです。」

- 民間企業と比べて、作業ぶりはいかがですか？

梅田さん「まだまだ改善点はありますが、よくやってくれています。時間がかかったとしても、結果が同じであれば同じ労務費を出せますからね。ハウスクリーニングは、市場のニーズはあると思うので、知的障害者の受け皿となるよう頑張ってください。」



賃借人が退居した後、部屋中をきれいにクリーニングします。窓もクリーナーで磨いてピカピカに。

廣瀬さんから一言

廣瀬さん「当施設を利用しているのは、主に知的障害者で、作業費は市価より若干、安いみたいです。お客様にはご満足いただいているようで、継続して発注していただいただけでなく、**口コミで新規のお客様をご紹介していただく**こともあります。清掃や除草などお気軽にお問い合わせください！」

法人税の優遇措置などのご案内

障害者施設との取引額に応じて、**法人税等の優遇措置**が認められます。

詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者の施設で取り扱っている**商品・サービス**はこんなにあります。

詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

先週は**1件のお問合せ**
ありがとうございます！

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数：1426部 電話**095-895-2454**

発行 長崎県障害福祉課（担当：村井）平成20年10月3日（毎週金曜19時発行）

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

梅田社長が希望が丘高等養護学校の評議員でいらっしゃった時、職場実習企業の開拓や、実習コースの新規立ち上げに奔走なされたとのこと。梅田社長のように応援して下さる方の力が、障害者の自立につながっていくはず。梅田社長、本当にありがとうございました！

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.7

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

九十九島の絶景が楽しめる展海峰は、知的障害者が維持管理

佐世保市の観光名所に九十九島がありますが、九十九島の景観を楽しめる名所を佐世保市が公募したところ、**展海峰**（佐世保市下船越町）が1位に選ばれたそうです。

この展海峰の維持管理を佐世保市から受託しているのは、知的障害者通所授産施設**わらびの里**（佐世保市瀬道町）。

展海峰の維持管理を施設に委託した経緯などについて、佐世保市企業立地・観光物産振興局の**中島大幸**さんにお話をうかがいました。

- 展海峰のことを教えてください。

中島さん「展海峰は、西海国立公園九十九島が一望でき、春は菜の花、秋はコスモスが一面に咲く観光名所です。」

- 展海峰の維持管理を、知的障害者の施設に委託した経緯は？

中島さん「18年度までは造園業者さんに委託していたのですが、予算面で厳しくなってきたんです。ちょうどその頃、障害者の施設へ発注を促進するような法律の改正もあり、農業をしていたわらびの里に相談したのがきっかけです。」

- 委託した感想は？

中島さん「わらびの里には、**土壌を耕す作業から種まき、水やり、雑草の処分まで**、花をきれいに咲かせるための作業を1年を通してお願いしています。委託した初年度は心配でしたよ。しかし、知的障害のある方々の雑草取りを始めとした**作業ぶりはきめ細やか**で、花の付き方が前年度以上によかったんです。なので、『これなら20年度も安心して委託できる』と思いました。」

- 最後にPRを。

中島さん「九十九島の絶景に加え、コスモスも見ごろを迎えました。たくさんの方に見ていただくと、作業をしている障害者の方も喜ばれると思います。皆様のお越しをお待ちしています！」



展海峰のコスモスは、ちょうど今が見ごろ。佐世保市のホームページでコスモスの開花情報を案内中。



満開のコスモスは、知的障害者の皆さんの地道な作業があるからこそ。

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設で取り扱う**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

知的障害者の施設が、佐世保市の観光名所の展海峰の維持管理をしている。

貴社でも、除草など敷地の維持管理を、障害者施設に発注するのをご検討されてみては？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数：1515部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年10月10日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

展海峰に行ったことがある方も、知的障害者の施設がコスモスを咲かせる作業をしていると聞いて、驚いたのではないのでしょうか？発注のきっかけの1つは、予算の問題だったとのことですが、結果的に発注者も受注者も恩恵を受けられて、無理のない形で社会貢献につながった良いケースだと思います。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.8

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

障害者施設が活魚料理店の角煮を使って、新商品を開発

長崎県庁では、毎週火～木曜まで障害者の施設がパンの販売をしていますが、毎週水曜に販売している精神障害者通所授産施設**桜の庵**（時津町子々川）さまは、新商品「**角煮ぱん**」を販売しています。

角煮ぱんの中に入っている豚の角煮は、**田中食品**（長崎市住吉町）さまが展開する**割烹たなか**の角煮を使っているとのことですが、どうしてそんなことができたのでしょうか？

「角煮ぱん」の開発について、田中食品の**永石眉子**さんと桜の庵の**竹山清美**さんにお話をうかがいました。

施設側

- どうして角煮パンを作ろうと考えたんですか？

竹山さん「関東に、豚の角煮を入れたパンがあることを知ったんですが、豚の角煮といえば、長崎。角煮を使ったパンが関東にあって、『長崎にないのはおかしい!』と思い、開発しようと決めました。」

- 肝心の角煮の調達はどうしたんですか？

竹山さん「たまたま、田中食品の永石さんと知り合いだったので、ダメもとで『譲ってもらえない?』と相談したんです。すると、『形の整っていない角煮なら。』とのことで、トントン拍子に進んでいきました。」

- パンを作る時に苦労した点は？

竹山さん「パンに角煮を入れると、角煮の油でパンを包むのが難しく、とても苦労しました。何とか完成した試作品は、田中食品の**田中不二男**社長にも試食していただき、『うちの名前を出してもよい』とお墨付きをいただいたのはとても嬉しかったです!」

- パンの評判はいかがですか？

竹山さん「今のところ県庁でしか販売していませんが、**ほぼ毎週売り切れ**ています。今後、他でも販売できるようにしてうちの看板商品に育て上げたいですね。」



割烹たなかの角煮を使った新商品の「角煮ぱん」。パンと角煮がとても合います。

企業側

永石さん「豚の角煮を切り出す時に出る、形が整っていない部分でも**味は商品と変わらない**ので、パンに使うのは面白いと思いました。」

実際に角煮をパンに使ってもらうことで、当社も**味の改良**に取り組みました。

ちょっとしたお取り引きですが、こちらも助かってますし、施設の方に喜んでいただき、嬉しいですね。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

精神障害者の施設の**新商品**は、活魚料理店の角煮を使っている。

施設から商品を買うだけでなく**施設に販売**することでできる**社会貢献**もある。

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:1665部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年10月17日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.9

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

障害者の作業所が栽培した花苗を、百貨店で販売

障害者の活動の場である小規模作業所ひよし（長崎市飯香浦町）では、いろんな種類の花苗を作っており、10月28日（火）から11月1日（土）の10時～19時まで長崎大丸（長崎市浜町）さまの入口付近で販売会を開催されるそうです。

百貨店と障害者の作業所がタイアップすることになった理由などについて、小規模作業所ひよしの大出敏博さんと長崎大丸の谷崎奈智子さんにインタビューしました。

- 作業所のことを教えてください。

大出さん「花苗の生産を行っている障害者の作業所です。障害のある方々が、花苗の栽培を土作りから行って育て、春と秋に出荷しています。」

- どんな花苗を栽培しているんですか？

大出さん「秋は、パンジーや葉ボタン、ピオラ、ノースポール、ストックなどで、全部で27万株近く出荷します。」

- 長崎大丸さんとのお付き合いは？

大出さん「何年も前から、毎年春秋2回、店舗前の場所をお貸しいただいています。1人でも多くの方に当作業所の活動を知って欲しいという願いから始めました。」

- お客様の評判は？

大出さん「安くて丈夫で長持ちすると好評です。作業所が山間部にあり気象条件も適し、土作りから始めてきめ細かく栽培しているからでしょう。呼び込みをしなくてもお客様から『前も買って、次の販売を楽しみにしていました！』と声をかけていただきます。」

- 最後にPRを。

大出さん「とてもいい状態の花苗が販売できそうです。浜町アーケードで買い物される時は、お立ち寄りください。」

作業所



土作りは重労働ですが、きれいな花苗を作るための大切な作業です。

色とりどりのパンジー。作業の結晶です



企業側

谷崎さん「障害者の作業所に販売していただくことで、障害のある方の活動を知っていただく機会にもなりますし、入口にカラフルな花の苗が並ぶと、お客様も足を止めてご覧になられます。」

我々社員も販売のお手伝いをさせていただきます。10月28日からの販売会をお楽しみいただきたいと思います。」

施設への発注をご検討の方へ法人税の優遇措置のご案内

障害者施設との取引額に応じ法人税等の優遇措置があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する商品・サービスはこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の社会貢献事例】

障害者の作業所が花苗を百貨店で販売する。

障害者が作った花苗を購入することで、社会貢献してみたいいかが？

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数：1646部

発行 長崎県障害福祉課（担当：村井）平成20年10月24日（毎週金曜発行）電話095-895-2454
バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

時津町のある企業さまでは、この通信をコピーして社員の皆さんで回覧されているとのこと。ありがとうございます！施設商品を利用させていただくのが1番ですが、まずは施設のことを知りたいです。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.10

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

ごうまなみさんインタビュー

毎週土曜正午からのNBCラジオ「ラジDONサタデー 奥様と村山のドラマチックな昼下がりに」のパーソナリティを始め、多方面でご活躍されている、**ごうまなみさん**。

ごうさんは、勇歩くんという障害のある息子さんのお母さんでもいらっしゃいます。ごうさんから、どんなお話しが聴けるのでしょうか？



ごうさんの言葉には人を動かす力が！

- ご長男の勇歩くんのことを教えていただけますか？

ごうさん「勇歩は『五番染色体異常』の障害児です。私は働いていますが、障害児を持つ親は、介護で働きに出ることができずに生活保護を受ける人も少なくありません。介護する人達の負担はとても大きいんです。」

- 勇歩くんのお母さんとして、学校の先生方に期待することは？

ごうさん「先生の初任者研修で講演させていただいたとき、知識はあるけど、頭で考えてしまう先生もいらっしゃいました。障害者といっても1人1人違うから、『障害者』とくっってしまうと失敗するかもしれません。子供の言葉に耳を傾け、気持ちに寄り添うと、その子の気持ちがわかります。**頭ではなく、心で感じて欲しいです。**」

- 障害のある人とそうでない人の交流については、どうお考えですか？

ごうさん「障害児は地元の小学校に通えないようになっているから、児童は、障害者と関わる機会がないんです。だから、日常生活で接する機会をもっと作りたい。だって、健常者にもできることとできないことがあるように、障害者にもできることとできないことがあるというだけのことで、**同じ命に変わりはないんですから。もっと交流した方がいいです。**」

- ところで、企業の社会貢献について、どのようにお考えですか？

ごうさん「企業の方が社会貢献という場合、恵まれない海外の方を支援することもあるかもしれませんが、『**こんな身近にいる障害者と接することも、社会貢献なのに**』と思うことがあります。障害者と接して会話することは社会貢献になるだけでなく、**社員の人材育成にも有効**なんです。こんな体験をした社員は大きく変わる。人の気持ちがわかる人間になります。」

「私は、人の魅力を伸ばす『魅力学インストラクター』としても活動していますが、魅力的な人とは、心に幅や深さがあって、人の気持ちがわかる人のこと。そんな魅力的な社員が接客すると、お客様は必ず好感を持ちます。『企業の印象は15秒で決まる』と言われていて、お客様は一瞬で見抜くんですよ。」

- ごうさんは社会貢献の1つとして、「エコロプロジェクト」というエコ活動もされていらっしゃるんですね。

ごうさん「『グリーンバード』というチームで、毎週木曜の夜に浜町でゴミ拾い活動をしています。が、若い人が20~30人も来てくれます。実は、これは自由参加。来たい時だけでOKだし、ゴミ拾いしながら、いろんな人とコミュニケーションできるのがいいのかも。どんな社会貢献でも、**強制されず、力まず、気楽にやるのが広がる秘訣**かもしれませんね。」

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数：1663部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年10月31日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

ご多忙にも関わらず、ごうさんには今回のインタビューを快諾していただきました。無理なく、自然体で活動される姿勢に、周囲の人がひきつけられるんだなと納得。これからラジオを楽しみにしています！